

中臣遺跡ナイフ形石器発見場所

中臣遺跡は、主に縄文時代から平安時代まで続く複合遺跡で、山科川と旧安祥寺川に囲まれた丘陵地に広がっています。1969(昭和44)年、地元の高校生が弥生時代の土器破片を見つけたことがきっかけとなり、それ以後、発掘調査が行われた結果、古代には一大集落が存在したことなどを示す大変貴重な遺構や遺物が発掘されました。

このうち、後期旧石器時代(約2万年前)のナイフ形石器がここから約50m南(右側)の場所で発見されました。この石器はサヌカイト製で、長さが8.5cmあり、京都市内では一番古いころの遺物です。京都市内で石器時代の遺物がこれほどまとまって発見されたのはここだけです。



【発見された石器 左下がナイフ形石器、他は製造過程の石器】

(京都市埋蔵文化財研究所所蔵)



この案内板は、区民参加により作成した冊子『京都山科東西南北 ～区民が選んだ魅力を訪ねて～』に掲載した魅力を紹介するものです。

その他の魅力については、山科区役所のホームページ <http://www.city.kyoto.lg.jp/yamasina/index.html>から『京都山科東西南北』をご覧ください。

山科魅力展開プロジェクト
山科区役所区民部まちづくり推進課
平成23年3月